

「段取り力養成講座」 参考資料

～ ITシステム開発プロジェクトにおける
プロジェクト立上げ時に説明すべきこと
& リスク観点例 ～

2017年6月
株式会社オフィス新

見積／受注／計画時に最低限確認したいこと 1/2

- ①客先概要 ※ユーザ情報はHPコピーでも可
ユーザ名、ユーザの事業規模・内容、ユーザ区分(新規／既存)、構築システム名
- ②本案件の経緯
提案までの経緯、現在のフェーズ(概算見積／正式見積／受注／PJ計画)、
見積提出時期・受注時期・本番時期、競合状況、受注確度
- ③戦略性
自社/自部門としての戦略性(自社としてのPJの目的)
- ④依頼元の要求事項 ※RFP等でも代替可
システム化目的(客先の目的)、システム全体イメージ、機能要件、非機能要件、客先予算
- ⑤契約計画
商流、契約形態(一括請負／段階契約／工数支援)
- ⑥スコープ ※RFP等でも代替可
要求仕様の明確性・安定性、機能範囲／対象範囲、作業工程一覧、成果物(納品物)一覧、
付帯サービス一覧(データ移行、マニュアル作成、教育)、運用・非機能要件(SLA)
- ⑦PJ体制 ※PJ体制図でも可
客先体制、開発体制(自社、関連会社、協力会社)、
同様システム開発の経験度(技術面、業種・業務面)、PJリーダーの経験度

IT開発プロジェクトの公開データ

2017年
株式会社オフィス新



一般公開されている主な基準値データ

資料名(提供元)	内容
ソフトウェア開発データリポジトリの分析 (一般財団法人 経済調査会:ERA)	2010年に初版発行(2001~2006年に収集した国内企業268社、1203件のデータをもとに分析)。2015年に第2版を発行。JFPUGと連携し、ベンダを中心にデータを収集している。 経済調査会サイトからDL可(http://www.zai-keicho.or.jp/)
ソフトウェアメトリクス調査 (一般社団法人日本情報システムユーザー協会:JUAS)	2004年から国内ユーザ企業から収集を開始し、2012年版では約800件のデータが収集されている。発注者の視点からソフトウェアの生産性、工期、信頼性などの分析結果を公開(6千円程度)。 同協会サイトから購入(http://www.juas.or.jp/)
ソフトウェア開発データ白書 (独立行政法人情報処理推進機構:IPA)	2004年から大手ITベンダを中心にデータ収集を開始。2016-2017年版では約4000件のデータを蓄積し分析、金融・保険業、情報通信業、製造業の分冊も発刊。 IPAサイトからDL可(http://www.ipa.go.jp)、製本版もあり。
組込みソフトウェア開発データ白書 (独立行政法人情報処理推進機構:IPA)	2015年11月に、“定量データ活用で見て来た組込みソフトウェア開発の一面を初公開”という副題で公開。 IPAサイトから購入可(http://www.ipa.go.jp)、製本版もあり。
プログラミング言語テーブル (米SPR社)	約1万件の事例から、COBOL、C、Java、Visual Basicなど約500種類のプログラミング言語別の言語水準(アセンブラと比較した高級度)を分析。その結果からFPあたりのLOCや生産性を提示。 SPR社のサイトから購入可能(http://www.spr.com/)